



2019年4月5日

各位

会社名 カネ美食品株式会社
 代表者名 代表取締役社長 三輪 幸太郎
 (JASDAQ・コード2669)
 問合せ先 経理財務部長 伊藤 誠
 TEL 052-879-6111 (代表)

特別損失（減損損失）の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年2月期第4四半期決算において、特別損失（減損損失）を計上するとともに、最近の業績の動向等も踏まえ、2018年5月17日に公表の2019年2月期通期業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の内容

当社の外販事業における一部工場の収益性の低下が見受けられ、また今後も大幅な改善が見込めない工場におきまして、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、2019年2月期第4四半期決算において、外販事業の固定資産の一部の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、12億58百万円を減損損失として特別損失に計上いたします。

2. 業績予想の修正

2019年2月期通期業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 82,945	百万円 483	百万円 548	百万円 227	円銭 23.11
今回修正予想 (B)	82,432	591	686	△804	△81.79
増減額 (B-A)	△512	107	137	△1,032	
増減率 (%)	△0.6	18.2	20.0	—	
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	90,233	△1,167	△1,062	△932	△94.73

【修正の理由】

外販事業において、製造効率の向上や荒利率の改善、経費の抑制に注力するとともに、2018年3月末に津工場（三重県津市）、同年7月末に三田工場（兵庫県三田市）を閉鎖し製造拠点の集約を実施するなど外販事業全体の生産性の向上に取り組んでまいりました。

それらの取り組みにより、外販事業全体の収益性が向上し、営業利益及び経常利益については前回公表の業績予想を上回る見込みとなりました。

一方、当期純利益については、上記1に記載の特別損失（減損損失）12億58百万円計上を計上したため、前回公表した数値を大きく下回る見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想の修正については、現時点において合理的であると判断する情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上